

言葉があふれる、
確かな力がつく

一年生



光村の「国語」完全活用ガイド

六年間の土台として、
学ぶ意欲と
確かな言葉の力を育む

一年生の学び



1年下巻「くじらぐも」



入学したばかりの子どもたちは、幼稚園・保育所等で多様な経験を重ねてきています。教科書では、そんな架け橋期の子どもたち全員が安心して学び、「学校が楽しい」「学ぶことが楽しい」と感じられることを重視しました。

「知りたい」「やってみよう」という意欲を育むとともに、確かな言葉の力と学びの習慣の基礎をつくれるよう、次の四つの工夫をしています。

心が動くと 言葉が生まれる

「あっ!」と気づく。「えっ?」と驚く。「そうだ!」と思いつく。このように心が動くと、われわれはその思いを言葉にしたくなります。例えば、登校の道すがら、五感を通じて、若葉のきらめきや鳥たちのさえずり、やわらかいそよ風にふと出会うと、「ああ、はるがきた」とつぶやきたくなるのです。

心が動く誰かに伝えたいくなります。例えば、物語を読み進めていくと「もしかすると次は——」「きつと結末は——」と想像してワクワクし、友達に話したく

なり、それに対する意見も聞きたくなります。しかも、感じ方や思いは一人ひとり異なります。だからこそ互いに思いを伝えあったり、聴きあったりする体験自体が楽しいのです。

言葉にしたいと感じ、自らの思いを互いにコミュニケーションする体験を通して心が満たされる。その積み重ねがやがて「言葉の力」として結実し、ひいては「ひと」「もの」「こと」と関わりあう人生の土台を培うことになるのです。このような理念のもと、光村図書の「こくこ」は、一年生の心が動く紙面づくりに情熱を注ぎました。

慶應義塾大学 鹿毛雅治



1 見つけて、声に出して、
たくさんの方々が生まれる

はるが きた

↓ 4 ページ

2 子どもの経験をいかした
学習の基礎づくり

さあ
はじめよう

↓ 10 ページ

3 短時間学習を積み重ねて
大きな力に

ことばの
たいそう

↓ 12 ページ

4 学びやすさと
個別の支援を担保する

QRコンテンツ、
デジタル教材

↓ 14 ページ

見つけて、声に出して、
たくさんの対話が生まれる

はるが きた

光村では、絵の中から見つけたことを自由に言葉にすることから国語の学習を始めます。「はるが きた」の絵には、個性あふれる子どもたちの生き生きとした姿が描かれています。児童の気づきや想像から言葉が生まれ、友達との対話によってストーリーが膨らんでいく――。国語学習の始まりにぴったりの教材です。



学校をゴールにした、楽しいファンタジーの旅へ

五枚の場面絵を通して描かれるのは、子どもたちがみんなで作り上げる、楽しい冒険の世界です。

これからの学校生活で、先生や友達と一緒に学んでいく喜びや、今いる場所から広い世界へと飛び出す期待感へとつながっていきます。



4



2

ぼくの大好きな
遊園地を見つけた。

大空を進む紙飛行機から見えるのは、広い広い世界です。
一人一人が絵の中の子どもたちに同化することで、好きなものや気になるものなど、さまざまな「発見」をします。
一つの「見つけた」は「伝えたい」に変わり、友達との対話が教室にあふれていきます。

✓ 一人一人の「見つける力」が、
対話につながります。



これからどこに
行くんだろう。

ぼくも一緒に
乗りたいな。

みんなが絵を描いた紙で、
紙飛行機を作ったんだね。

みんなで作り上げた紙飛行機に乗り込み、旅に出かけます。
この絵を見た児童たちは、絵の中の子どもの笑顔や、元気に咲くタンポポ、美しい風の色などに、わくわくすることでしょう。自然とストーリーに引き込まれて、次のページを開くのが楽しみになります。

✓ 明るく楽しい絵とストーリーで、
国語の教科書が好きになります。

6

5



その たび
ふわり きらきら
いろんな ものを
みつけたよ

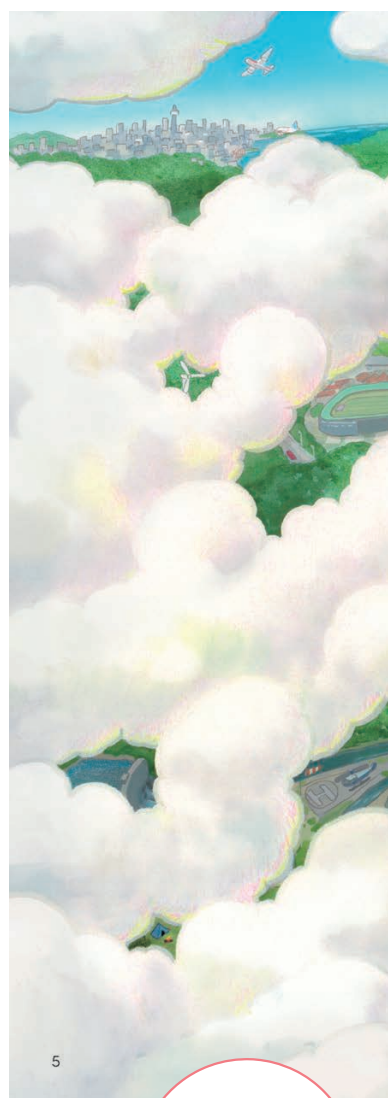
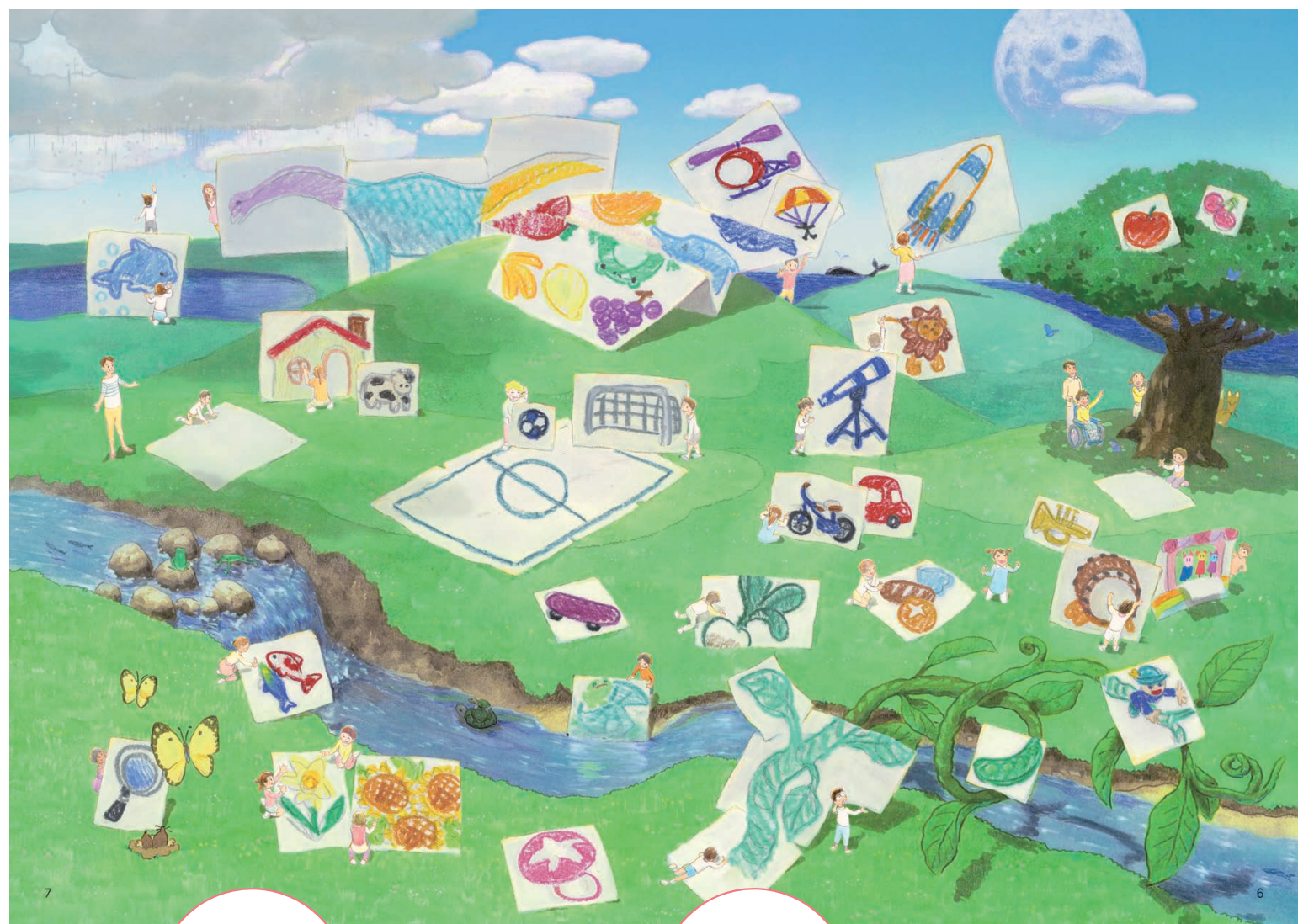


ILLUSTRATION COPYRIGHT © Ponoc

生きていくことは

詩人・作家
蜂飼耳



不思議な紙飛行機の旅は、知らなかったことを次々に発見する旅です。初めての経験や、思いがけない発見は、みんなの好奇心をさらに育てるでしょう。そして、いきいきとした好奇心は、先へ進んでいくという気持ちを呼び起こすのではないのでしょうか。

生きていくことは、自分だけではなく、さまざまな人たちが人間以外のものたちとも共に生きていくことです。そうした基本的で大切なことに気づく旅が、春の空に行くこの紙飛行機の旅なのだ、という思いを込めて、私は「はるが きた」の言葉を綴りました。

ぼくだったら、はしごの
絵を描くよ。月まで届くかな。

恐竜は、どのくらい大きい
のかな。黄色い尻尾を滑り台
にしたら、楽しそう。

言葉と体で楽しみながら、
想像力と創造力が広がります。

子どもたちの絵が現実とつながり、一つの空間を作り上げていきます。

そこには、絵を描いたり、友達や先生と遊んだり、思い思いに過ごす子どもの姿があります。

その個性と多様性を受け止めながら、児童たちは、言葉と体を使って、自分なりのストーリーを描いていくことができます。

空からだ、観覧車が
小さく見えそうだね。

子どもの経験をいかした 学習の基礎づくり

さあ はじめよう

幼稚園、保育所等での経験や育ちをいかした、架け橋期にぴったりの教材群です。スタートカリキュラムの中で、生活科や書写と関連させて取り組めるように配慮しました。四月の一月間で、友達と学ぶ楽しさを知るとともに、国語学習の基礎をつくります。

1

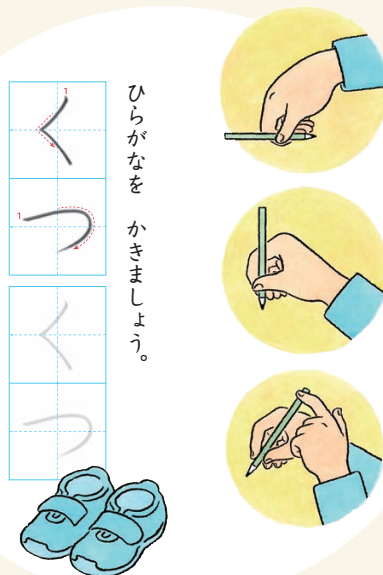
おはなし ききたいな
読み聞かせを楽しむ



先生の声に聞き入り、お話を楽しむことが、大切な学びの基礎をつくります。

3

かく こと たのしいな
文字の書き方を楽しくマスター

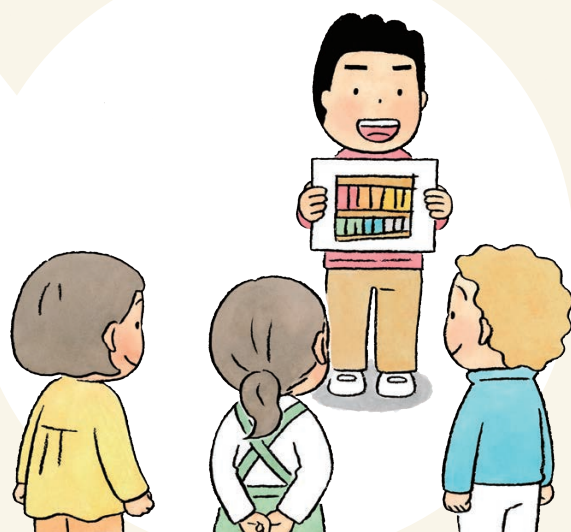


ひらがなを かきましよう。

楽しい唱え歌で、鉛筆の持ち方と、書くときの姿勢を学び、一画の平仮名を書きます。

5

こんな もの みつけたよ
学校探検での発見を伝える



友達の前で初めての発表をします。二文程度で話せるようになります。

2

なんて いおうかな
学校での人との関わり方を学ぶ



学校生活のさまざまな場面で、どのような言い方をするか考えます。

4

どうぞ よろしく
名前を書いて自己紹介



自分の名前を書いて名刺カードを作ります。友達と自己紹介し合うことで、互いの顔と名前も覚えます。

6

うたに あわせて あいうえお
母音の発声や口形を確かめ、文字に親しむ



唱え歌を唱えたり、文字をなぞったりすることで、母音の発声や口形を確かめ、文字に親しみます。

短時間学習を積み重ねて
大きな力に

ことばのたいそう

音読・対話・語彙に特化した教材を一セットにして、
年間に三回位置づけました。どの教室でも、無理なく
楽しみながら、六年間の国語の土台をつくっていきま
す。いずれも長期休み明けに設定したことで、子ども
たちの学習ペースを整える効果も期待できます。



音読

詩の音読を通して、
日本語の語感や
リズムに触れる

みんなで声に出して読む楽しさを感じながら、日本語の語感やリズムに触れることで、日本語の素地を養います。学習の積み重ねにに応じて、詩の分量や数が増えています。

対話

対話力の基礎となる
「聞く力」をつける

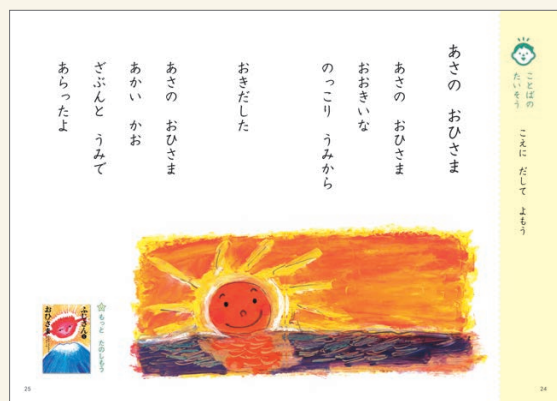
対話の基本は「聞く」こと。日常的に「聞く」を中心に据えた活動を積み重ねることとで、子どもたちの対話力を育てます。活動の形式や、取り上げる話題も、成長に合わせてものになっています。

語彙

言葉遊びを通して、
語彙を豊かにする

楽しい言葉遊びを通して、身近な語彙を無理なく増やします。「やつて みよう」にあるQRコードから、さらに取り組めるワークシートを活用することができます。（詳しくは14ページへ）

5月連休明け



上巻 24ページ

夏休み明け



上巻 96ページ

冬休み明け



下巻 74ページ



上巻 26ページ



上巻 98ページ



下巻 76ページ



上巻 28ページ



上巻 100ページ



下巻 78ページ

学びやすさと
個別の支援を担保する

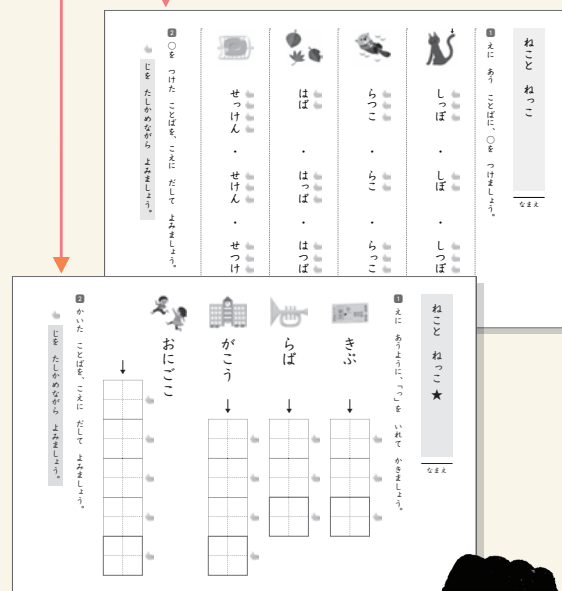
QRコンテンツ・デジタル教材

教科書に準拠した
取り組みやすいワークシート

QRコンテンツ
「やってみよう」



QRコードからPDFにアクセスできます。



取り組みやすいシートと、
発展的なシートの2種類があります。



教科書の設問をもとにしたワークシートです。答えを選択肢から選ぶことができます。課題や、実際に自分で書いてトレーニングができる課題などで、さまざまな子どもの学びに対応します。

学習のユニバーサル
デザインの視点から

明星大学 小貫 悟



特殊音節をはじめ、「読み」や「書き」の学習に苦手のある子どもたちを支えるコンテンツを用意しました。さまざまな子どもたちの言葉の力の土台をつくります。

新版の教科書では、入門期の「文字」や「特殊音節」の学びに際して、紙面上の学習に加えて、そこに付されるQRコードや、デジタル教科書・教材を利用できます。つまり、さらに深めて学びたい子どもや、特別な学びのニーズがある子どもが、補充的なワーク課題へアクセスできるのです。特に、つまづきがある子どもが、学習に取り組み続けるモチベーションを支えられる環境が大切になります。

スモールステップ化で、
学び方の選択肢が広がる

QRコードのワークシートでは、教科書での学習と連動する「広げる」「深める」「繰り返せる」を実現するために、より「楽しい」「取り組みたい」と思える課題形式の工夫をしています。

一人一人が、
より主体的に取り組める

前述の工夫をさらに一歩進めたのがデジタル教科書・教材のワークです。デジタルならではの強みを活かして、試行錯誤ができる操作性や、楽しい画面構成を行っているところに注目してください。

これらは、学びの多様性が言われる中で「個別性に応じた最適な学びを支える」ことを具体的に実現させるための、従来の教科書の限界を超える試みと言えるでしょう。

クラウド配信版で、もっと個別の支援を

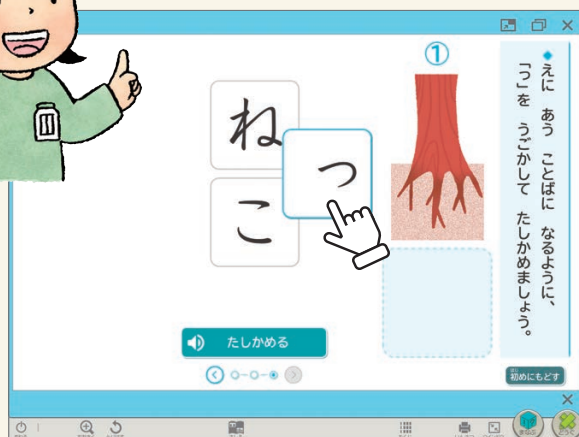
名前	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1 青木 隆太	●	●	○	○	○	○	○	○
2 秋山 はるか	○	○	○	○	○	○	○	○
3 岩下 悠真	●	○	○	○	○	○	○	○
4 持砂 隼	●	●	●	●	○	○	○	○
5 金田 洋介	●	●	●	●	●	●	○	○
6 小池 美里	●	●	○	○	○	○	○	○

デジタル教科書・教材のクラウド配信版では、子どもたちが取り組んだワークの正誤を集計して、先生の端末で一覧することができます。どの子どもがどのような困難を抱えているのかに気づきやすいため、個別の支援をするきっかけになります。

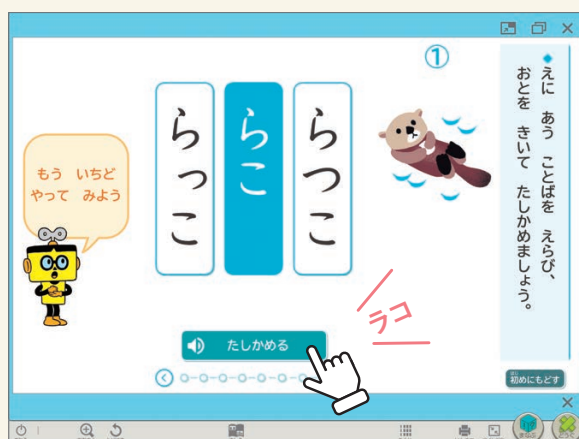


音を聞いたり、何度も
試行錯誤したりすることができる

デジタル
教科書・教材の
「動かすワーク」



文字のカードを自分で操作しながら、音声・意味との結び付きを確かめられるワーク。「間違えるとこんな音になってしまう」と気づくことで、促音に対する理解が深まります。



絵を見て正しい表記を選び、音声を聞いて答え合わせをするワークです。促音がある場合とない場合の違いを、音声と関連づけて理解できます。

「個別最適な学び」「協働的な学び」のために

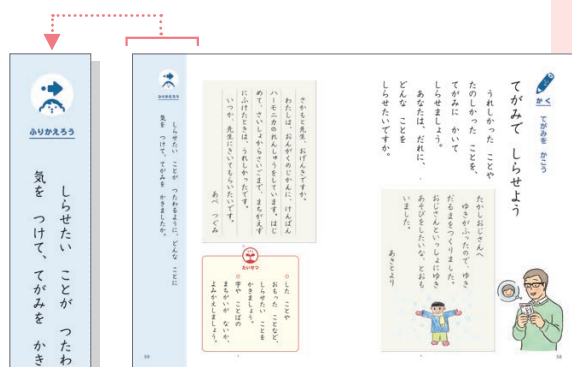
思考や対話を支える語彙を増やす 「ことばの たからばこ」

友達と交流するとき、自分の考えにぴったりと合う言葉を使って考え、表現できるように、1年下巻にも巻末折り込み付録「ことばの たからばこ」を新設しました。



学習の自己調整を促す 「ふりかえろう」

2学期以降の単元で、「ふりかえろう」を新設しました。自分自身の学びを省察する学習習慣を、少しずつ身につけていきます。



1年間の
成長を
実感

1年下巻の最後で、がんばったことを振り返り、1年間の自分の成長を実感することができます。



下巻「ひょうしょうじょう」

内容解説資料
発行者
発行所

吉田直樹
光村図書出版株式会社
〒141-8675
東京都品川区上大崎 2-19-9
電話 03-3493-2111 (代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書

検索



印刷
デザイン
イラスト

協和オフセット印刷株式会社
キタダデザイン
ながしまろみ

子どもたちの未来のために、光村図書は、教科書の作成にあたって、「環境」「健康」「子どもの特性」に配慮しています。

- ・ 原料や製法など、環境に配慮した紙を使用しました。
- ・ 環境と健康にやさしい、エコマーク認定の植物油インキで印刷しました。
- ・ 児童の負担を軽減するため、堅牢で薄い紙を開発し、使用しています。
- ・ カラーユニバーサルデザインに関して、細心の注意を払いました。
- ・ 児童の学習負担を軽減するように配慮された書体を使用しました。
- ・ 特別支援教育の視点から、専門家の入念な校閲を受けました。

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



光村図書